

2015 年度

地球温暖化対策計画書

1 指定地球温暖化対策事業者の概要

(1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の別	氏名（法人にあつては名称）
指定地球温暖化対策事業者	京浜急行電鉄株式会社
特定テナント等事業者	株式会社ホテルグランパシフィック

(2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称		ホテル グランパシフィック LE DAIBA							
事業所の所在地		東京都港区台場二丁目6番1号							
業種等	事業の業種	分類番号	K69	K_不動産業_物品賃貸業	不動産賃貸業・管理業				
		産業分類名	不動産賃貸業・管理業						
	事業所の種類	主たる用途	ホテル						
		用途別内訳	建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)	前年度末	123,775.44	m ²	基準年度	123,229.99	m ²
			事務所	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			情報通信	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			放送局	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			商業	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			宿泊	前年度末	109,710.60	m ²	基準年度	109,165.15	m ²
			教育	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			医療	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			文化	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			物流	前年度末		m ²	基準年度		m ²
駐車場	前年度末		14,064.84	m ²	基準年度	14,064.84	m ²		
工場その他上記以外	前年度末		m ²	基準年度		m ²			
事業の概要		<p>不動産の賃貸としてホテルグランパシフィックを運営している。</p> <p>ホテルグランパシフィックの概要 ホテル、食堂、飲食店、駐車場、プール、スポーツ施設等の経営、酒類、惣菜、アイスクリーム類、菓子等の製造・販売業、飲食料品、日用雑貨品、スポーツ用品及び刊行物の販売、外貨の両替、土地建物の売買、賃貸等の管理 ・平成10年6月開業、・地上29階、地下3階</p>							
敷地面積		20,870.37 m ²							

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	京浜急行電鉄株式会社 総務部	
	連絡先	電 話 番 号	0 3 - 3 2 8 0 - 9 1 2 0
		ファクシミリ番号	0 3 - 3 2 8 0 - 9 1 1 1
		電子メールアドレス	
公表の 担当部署	名 称	京浜急行電鉄株式会社 総務部	
	連絡先	電 話 番 号	0 3 - 3 2 8 0 - 9 1 2 0
		ファクシミリ番号	0 3 - 3 2 8 0 - 9 1 1 1
		電子メールアドレス	

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページで公表	アドレス : http://www.keikyu.co.jp
	<input type="checkbox"/> 窓 口 で 閲 覧	閲覧場所 :
		所在地 :
		閲覧可能時間
	<input type="checkbox"/> 冊 子	冊子名 :
入手方法 :		
<input type="checkbox"/> そ の 他		

(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の 使用開始年月日	<input checked="" type="radio"/> 平成18年3月31日以前
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度		<input type="radio"/> 平成18年4月1日 以降

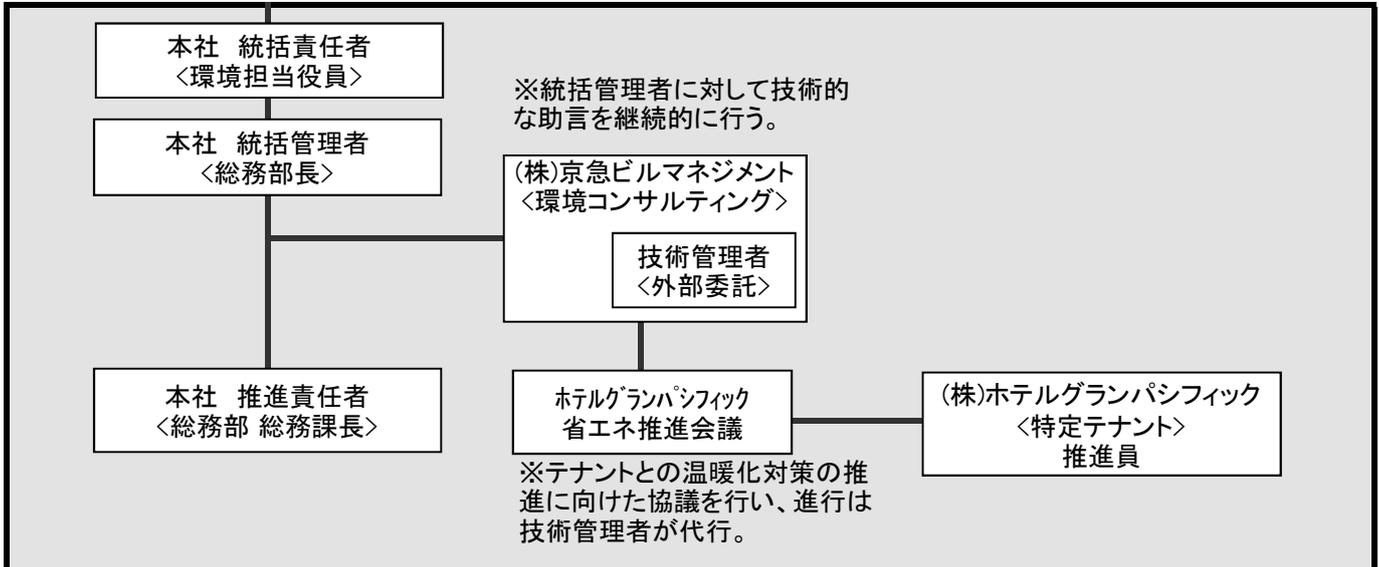
2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

当事業所は、ISOの環境マネジメントシステムであるISO14001を2004年度にホテル業界としていち早く取得するなど、『環境にやさしいホテル』を方針として掲げ、省エネルギー推進と温室効果ガス排出量の削減に積極的に取り組んでいる。

また、当事業所の建物は建築時に予め省エネルギー手法を取り入れた設備設計をしているため、新たな設備導入による大幅な省エネルギーを実現することが難しいものの、様々な省エネルギー手法を継続的に探索し、本計画開始以前に多数の省エネ対策を導入してきた。こうした取り組みに加えて、今回の東京都地球温暖化対策計画書制度においても、さらなる施設の運用・改善に取り組むべく様々な対策を計画し、実施していく予定である。

さらに、地球温暖化対策を当事業所の従業員一人一人の問題として認識し、バックヤードを中心とした運用面における省エネルギー化にもテナント事業者も含め当事業所の組織全体を挙げて取り組む方針である。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2015 年度から 2019 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	これまでに導入した高効率設備の最適な運転管理を継続するとともに、本計画にて整備した推進体制による組織的な取り組みを継続し、温室効果ガスの削減を図る。加えて、高効率機器の計画的な導入や、新たな対策手法の積極的な採用を推進し、削減目標（基準排出量の15%）の達成を図る。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当施設から排出される特定温室効果ガス以外の温室効果ガスは水道の使用および下水道への排水に伴う二酸化炭素の排出が主なものである。こまめな節水を行うことにより、本温室効果ガスの削減を図る。		
削減義務の概要	基準排出量	18,007 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I-2
	排出上限量（削減義務期間合計）	76,530 t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	15.0%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	第2計画期間のCO2削減状況を踏まえ、基準排出量の15%以上のCO2削減達成を目指す。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	現在の削減期間における対策を引き続き行うことにより、削減対策効果量の維持に努める。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
特定温室効果ガス（エネルギー起源CO ₂ ）		13,703	11,675	12,407	12,712	12,647
その他ガス	非エネルギー起源二酸化炭素（CO ₂ ）					
	メタン（CH ₄ ）					
	一酸化二窒素（N ₂ O）					
	ハイドロフルオロカーボン（HFC）					
	パーフルオロカーボン（PFC）					
	六ふっ化いおう（SF ₆ ）					
上水・下水		88	136	159	164	138
合計		13,791	11,811	12,566	12,876	12,785

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/m²・年

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量	110.7	94.3	100.2	102.7	102.2

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2005年度、2006年度、2007年度 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

変更年度	年度	変更理由	
変更年度	年度	変更理由	
変更年度	年度	変更理由	

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 2
----------	-------

(4) 削減義務期間

2010 年度から	2014 年度まで
-----------	-----------

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	14,844	14,844	14,844	14,844	14,844	74,220
	削減義務率 (B)	6.0%	6.0%	6.0%	6.0%	6.0%	
	排出上限量 (C = ΣA-D)						69,770
	削減義務量 (D = Σ(A × B))						4,450
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	13,703	11,675	12,407	12,712	12,647	63,144
	排出削減量 (F = A - E)	1,141	3,169	2,437	2,132	2,197	11,076

(7) 特定温室効果ガスの排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

2014年度は、2013年度に比べ来客数が1.1%増加したため空調負荷も増加したが、積極的な省エネ推進の効果により、CO2排出量は減少した。

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
		【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】			
1	130100	13_空調和の管理	客室系統FCUの冷温水流量の比例制御	2008～2010年度	客室系統FCUの冷水・温水の流量制御を比例制御に変更し、かつ、客室管理システムと連動させ宿泊客不在時の流量を最小化する。
2	120500	12_熱搬送設備の運転管理	低層系統冷温水ポンプの回転数制御の導入	2009年度	低層系統冷温水ポンプにインバータ制御システムを導入し、変流量制御を実施して、消費電力を低減する。
3	120500	12_熱搬送設備の運転管理	給湯用温水ポンプの回転数制御の導入	2009年度	給湯用温水ポンプにインバータ制御システムを導入し、変流量制御を実施して、消費電力を低減する。
4	120500	12_熱搬送設備の運転管理	低層系統厨房冷却水ポンプの回転数制御の導入	2009年度	低層系統厨房冷却水ポンプにインバータ制御システムを導入し、変流量制御を実施して、消費電力を低減する。
5	130100	13_空調和の管理	蒸気ボイラの更新に伴う給排気ファンの動力削減	2009年度	蒸気ボイラの更新に伴って、給排気ファンの一部停止と、プーリー交換を行い、消費電力を低減する。
6	120100	12_燃焼設備の管理	高効率小型貫流ボイラーへの更新	2009年度	炉筒煙管ボイラーを高効率小型貫流ボイラーに更新し、燃料消費量を低減する。
7	150200	15_照明設備の運用管理	客室廊下照明へのLED照明の導入	2009～2010年度	客室廊下で用いている白熱球、ミニクリプトン球、クリヤー球をLED照明に更新し、消費電力を低減する。
8	150200	15_照明設備の運用管理	駐車場照明の間引き	2009年度	地下駐車場で用いている蛍光灯を間引きし、消費電力を低減する。
9	130100	13_空調和の管理	空調機へのインバータ制御システムの導入	2010年度	空調機の給気ファンにインバータ制御システムを導入し、季節、時間により周波数を変動させ、消費電力を低減する。
10	150200	15_照明設備の運用管理	共用部へのLED照明の導入	2011年度	ロビーおよびホワイエで用いている白熱球、ミニクリプトン球、クリヤー球をLED照明に更新し、消費電力を低減する。
11	150200	15_照明設備の運用管理	駐車場照明へのLED照明の導入	2012年度	駐車場で用いているナトリウム灯をLED照明に更新し、消費電力を低減する。
12	150200	15_照明設備の運用管理	共用部へのLED照明の導入	2012～2014年度	館内照明を高効率タイプに更新し、消費電力を低減する。
13	150200	15_照明設備の運用管理	野外照明へのLED照明の導入	2015～2017年度	屋外照明を高効率タイプに更新し、消費電力を低減する。
14					
15					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
	【その他ガス削減量の削減の計画及び実施の状況】				
51	490200	49_その他の削減対策	下水処理水の利用	2013年度	雑排水再利用システム(セラミック平膜システム)を導入し、下水を削減する。
52					
53					
	【排出量取引の計画及び実施の状況】				
61					
62					
63					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

当ホテルでは、（旧）地球温暖化対策計画書制度に即して策定した以下対策を実行（継続）し、特定温室効果ガスの排出量削減を推進している。

1. 共用部での計画的な設備導入を実施

- ・空調温度および湿度を適切に管理することによる空調負荷の低減
- ・低層階系統の冷温水ポンプの回転数制御を導入することによる消費電力の削減
- ・インバータ安定器を早期更新することによる、機器効率の維持
- ・廊下、ロビー等でのLED照明導入による消費電力削減
- ・給湯用温水ポンプの回転数制御を導入することによる消費電力の削減
- ・駐車場換気ファンへのインバータ制御システム導入による消費電力の削減
- ・低層階系統の厨房冷却水ポンプの回転数制御導入による消費電力削減
- ・大型蒸気ボイラを小型貫流ボイラへ更新することによる放熱ロスの削減
- ・ロビー、ホワイエでのLED照明導入による消費電力削減
- ・駐車場照明のLED化による消費電力削減
- ・レストラン照明のLED化による消費電力削減

2. 客室系統での取組

ホテルとして求められる機能、品質を損なわない範囲で、省エネルギー化を推進

- ・客室系統ファンコイルユニットの冷温水流量の比例制御による消費電力の削減

3. バックヤードにおける運用上の取組

- ・スタッフが利用する廊下等の照明間引きによる消費電力削減
- ・不使用場所、不使用時間帯において、こまめな空調、照明停止の励行
- ・フロア移動時における「2Up, 3Down」以内のエレベータ不使用の徹底
- ・事務機器の待機電力削減

4. エネルギーの見える化の実施

- ・2014年度 ビルエネルギーマネジメントシステム(BEMS)導入によるエネルギー動向の把握

5. 保守、点検での取組

- ・空調機、インバータ等を定期的にメンテナンスすることによる効率（性能）維持
- ・メンテナンスを通じて、必要な設備更新を実施

6. その他ガスでの取組

- ・2013年度に中水の下水処理へろ過循環システムを導入し、中水の使用量を削減